

行政視察報告

産業経済常任委員会

日 時	令和元年7月24日（水）～25日（木）
場 所	香川県三豊市、香川県善通寺市
出席者	菅沼委員長、松井副委員長、植中委員、桑原田委員、堀田委員、大島委員、産業振興戦略局長
視察目的	<p>環境問題への取り組みは国連が推進するSDGsをはじめ、地方自治体でも活発に行われ、私たちの湖南省においても地域自然エネルギー導入などが先進地として各自自治体から注目を集めています。湖南省では市単独のリサイクルプラザ運営や広域行政組合による衛生センター運営などゴミ処理および資源化政策を実施していますが、各施設も老朽化の時期をむかえており、今後の環境対策については広い視野を持って考え、実行しなければなりません。</p> <p>また、農業政策については「みらい公園湖南整備構想」を軸に進めており、ハード整備を終えた今、ソフト面を中心とした農業戦略で高い目標達成に結び付けなければなりません。</p> <p>以上のことから、今回の行政視察では「バイオマス資源化センターみとよ」「讃岐もち麦ダイシモチ普及促進事業」の取り組みについて視察を実施致しました。</p>

7月24日	香川県三豊市
視察内容	バイオマス資源化センターみとよについて
概 要	<p>従来は広域行政組合にて焼却処分を行っていたが、施設の老朽化により新施設を検討。焼却をしないごみ処理計画としてプロポーザルで全国公募を行う。採用となったトンネルコンポスト方式【①燃やせるごみの燃料化②微生物の活用（発酵による乾燥、脱臭等）③排水の有効活用（場内で発生した汚水を発酵用の循環水として活用）④燃やさない（二酸化炭素の排出量の削減）⑤低コスト】を活用し、「燃やせるごみ」を固形燃料に変える取り組み。年間1万トンの可燃ごみが固形燃料の燃料原料4,100トンになる。市の負担は委託契約料として年間2億6,700万円（1トンあたり2万4,800円）。センターは燃やせるごみを預かり、微生物の力を利用して燃料原料化し販売、固形燃料化は他の民間事業者が受け持つ。施設整備費の16億円は民間負担で行政負担はなし。次世代モデルとして全国自治体から視察要望が相次いでいる。</p>
質疑等	<p>問 従来の可燃ごみの量と焼却の場合の費用との比較は。</p> <p>答 年間1万トンとなります。おおよそ半分は水蒸気となり蒸発しま</p>

す。焼却処分時の委託費用は従来と変わりませんが、一時の巨額な設備投資や施設修繕などの費用がかかりません。

問 燃料原料の量は。

答 燃料原料としては年 4100 トンを見込んでいます。

問 可燃ごみの収集方法は。

答 ごみ収集車による従来と同じ収集方法となります。従来通りの18 分別方式で市民による分別負担は変わりません。

問 トンネルコンポスト施設の建設費用は。

答 施設整備には 16 億円を民間企業で負担しております。

問 事業として成功させる条件として必要なことは。

答 固形燃料を使用する企業をしっかりと確保することが最も重要な部分となります。

写 真



7月25日	香川県善通寺市
事業名	讃岐もち麦ダイシモチ普及促進事業について
概要	平成9年から平成24年の16年間、ダイシモチは作付面積0.1㌃、収穫0.5ト㌢であり、種苗保護程度の生産となっていた。営業課の新設により民間手法を用いて農産物等の市場を開拓。現在は関連を合わせ約6,600万円の売上高まで成長している。
質疑等	<p>問 営業課の由来とその役目は。また設置による効果は。</p> <p>答 当時の市長の交友関係により乳酸飲料の企業の役員を迎え入れ、民間企業のノウハウを行政に取り入れることになった。企業の手法に職員も触れる事ができること、戦略的な数値目標達成を可能としている。</p> <p>問 ダイシモチの普及に再度注目をしたきっかけは。</p> <p>答 食物繊維やβグルガン、カルシウム、ビタミンB1などのダイシモチが持つ特徴に着目し、健康食の流行にも乗りストーリーをつくることができました。</p> <p>問 販売戦略の工夫は。</p> <p>答 量販店を避け売り場占有率の高いところに営業活動を行いました。ホームセンター、美容院、健康食材取扱店や大手企業の社食、レストラン。宅配として牛乳配達と提携を行いました。また、市役所の職員が行う営業の強みで経営者のトップと直接交渉が出来ることが数多く見られた。</p> <p>問 販路の拡大の取組みは。</p> <p>答 店頭などで試食販売を積極的に行った（通常の5倍売れる）。地元業者に対し全粒粉を持ち込み試作品開発の依頼を行った。また、活用方法のレシピづくりも大切にしました。</p> <p>問 作付増に取り組む注意点は。</p> <p>答 重要と供給のバランスが大切です。急に作付増を行うのではなく、段階的に売り上げを伸ばし、収穫を増やすことが必要です。</p> <p>問 生産推移と今後の展望は。</p> <p>答 平成30年以降は作付面積50㌃、収穫量200ト㌢を予定している。生産推移は平成9年～24年（0.5ト㌢）、平成25年（15ト㌢）、平成26年（21ト㌢）、平成27年（75ト㌢）、平成28年（71ト㌢）、平成29年（168ト㌢）となっています。</p> <p>問 今後の課題は。</p> <p>答 ダイシモチの関係組織の改善を考えている。生産者から販売店までのルートを2組織（㈱まんがんと、(公財)善通寺市農地管理公</p>

社)で行ってきたが、販売販路拡大、出荷を(株)まんでがんが請け負
い、麦の提供、品質管理を(公財)善通寺市農地管理公社が請け負
うことで、組織機能の分離化を図ります。

写 真

